

2024 年度 大学院 法学研究科 博士前期課程 入学試験

(一般入学選考 2 月)

1 時限目 A 専門科目

租税法 試験問題

受験番号	氏名

『租税法』

次の二つの問題のうち、一つを選択して論述してください。

問題1 租税法律における平等原則適合性の判断基準について代表的な最高裁判例を踏まえて論述してください。

問題2 法人税法における「会計の三重構造」について論述してください。また、逆基準現象の問題にも触れてください。

解 答 例

近畿大学大学院法学研究科 ( 博士前期 ) 課程

2024年度入試 ( 2 ) 月期 <2023年度実施>

( 一 般 ) 入学選考

( A 専門科目 )

科目名 ( 租 税 法 )

解答例はなし

# 出 題 意 図

近畿大学大学院法学研究科（博士前期）課程

2024年度入試（2）月期 <2023年度実施>

（一般）入学選考

（A 専門科目）

科目名（租税法）

## 問題1

租税法の基本原則である租税公平主義についての理解を問うものである。

金子宏『租税法』（弘文堂）などの代表的なテキストを読み込んでその意義及び内容を理解しているか、そして、租税立法との関係において最高裁昭和60年3月27日判決で示された憲法14条合憲性の判断基準に理解が及んでいるかを問うている。

## 問題2

法人税の所得計算の基本規定である「公正処理基準」についての理解を問うものである。

渡辺徹也『スタンダード法人税法』（弘文堂）などの代表的なテキストを読み込んで、いわゆる「会計の三重構造」に関して企業会計や会社法会計との関係を理解しているか、さらに、「逆基準現象」について内容とその発生理由について説明できるかを問うている。